

## フィラリア集団検血用簡便染色器具の考案とその使用法

琉球衛生研究所 寄生虫部

平 識 善 保

### 緒 言

集団採血時におけるフィラリア検血の処理は、従来より色々な方法で行なわれているが夜間作業のため色々と手数と時間を要するので今回簡便法を考案したのが、このスプリング式染色器具である。

- (1) 主な器具は鋼鉄線21番線の鍍金スプリングで、直径1.2センチメートルの丸巻か又は角巻で巻数が54回巻のものを使用し、此のスプリングの両端に丸型輪を造りスプリングの固定用にする。
- (2) 附属スライドグラス整頓板は厚さ1センチメートル、巾7.5センチメートル、長さ23センチメートルの木板を使用し、この木板の片面にスライドグラスの整頓のため高さ2センチメートルの木板を横側に取付けて固定する。
- (3) 附属スライドグラス整頓板の両端1.5センチメートルの処に高さ2.3センチメートルの鉄釘を打込みスプリングの固定用にする。
- (4) 採血作業の時には(3)の鉄釘にスプリングの両端に造つた丸型輪を掛けて引伸ばせば1.5ミリメートルの区間が出来るのでスライドグラスが乾き次第、このスプリングの区間に狭み込む、適当数に至れば一側の丸型輪を静かに離せばスライドグラスはスプリング内に固定される。
- (5) このスプリングにスライドグラスを狭み込む時は、採血番号を書いた方を一側にして狭む、又スライドグラスの数は50枚程度が適当だと思料される。
- (6) 溶血を行なう時はスプリングに狭んだまま行ない、のち巾17センチメートル、長さ18センチメートル、深さ10センチメートルの染色つぼに縦に入れて染色を行ない、又染色後、水洗を充分に行ない、スプリングに狭んだまま三日月型にして立て、乾燥させる。
- (7) 溶血、染色、水洗の時は必ず両手で持つて取扱い、乾燥を終えたスライドグラスを検鏡する際はスプリングの両端を適当につかんで引伸ばせば、スライドグラスは静かにスプリングより離れ落ちるので、適当な箱内に納め検鏡を行なう。
- (8) 最後に色々と研究の結果、スプリングは54回巻が取扱い上、最も適当だと思料される。
- (9) 3項の整頓板は、鉄板鍍金か、又はプラスチック製が最良である。

以上がスプリング式染色器具とその使用法である。

1963年2月